# ウォークスルーサービスCatalyst Centerとの統合

# 内容

はじめに

前提条件

<u>使用するコンポーネント</u>

<u>短縮形</u>

セクション1: Cisco Catalyst Centerのセットアップ

セクション2:ServiceNowユーザの作成と設定

セクション3: MIDサーバーの設定

<u>セクション4:ServiceNowでのCatCエントリの作成</u>

セクション5: CatC GUIでの統合の開始

参考資料

## はじめに

このドキュメントでは、統合するCatalyst Center、ServiceNow、およびMIDサーバの準備と設定の手順を順を追って説明します。

# 前提条件

次の前提条件が満たされていることを確認します。

- ServiceNowへの管理者アクセス。
- Cisco Catalyst Centerへの管理者アクセス
- MIDサーバをホストするために、Ubuntu、RHEL、Windows、またはCentOSを実行している仮想マシン(VM)サーバ。
- Cisco Catalyst Center、ServiceNow、およびMIDサーバ間でTCPポート443を許可する必要があります。

# 使用するコンポーネント

このガイドでは、次のコンポーネントを使用しました。

- Cisco Catalyst Centerリリース: 2.3.7.9
- ServiceNowリリース:横浜
- Ubuntu VMリリース: 22.04

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな(デフォルト)設定で作業を開始していま

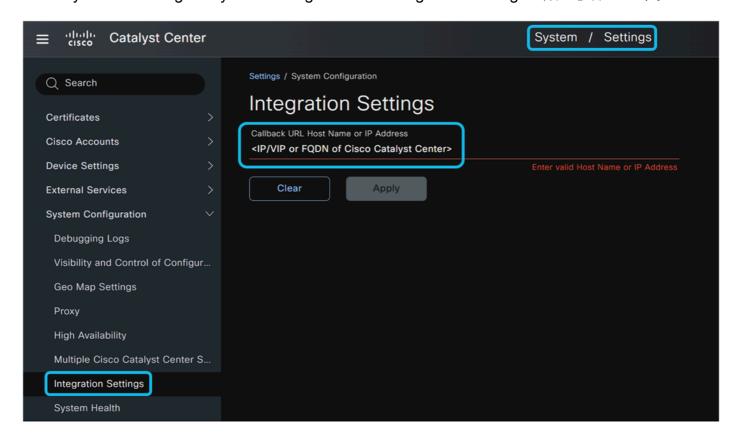
す。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認して ください。

# 短縮形

• CatC = Cisco Catalystセンター

# セクション1: Cisco Catalyst Centerのセットアップ

- 1. Cisco Catalyst Centerのグラフィカルユーザインターフェイス(GUI)にログインします。
- 2. System > Settings > System Configurations > Integration Settingsの順に移動します。



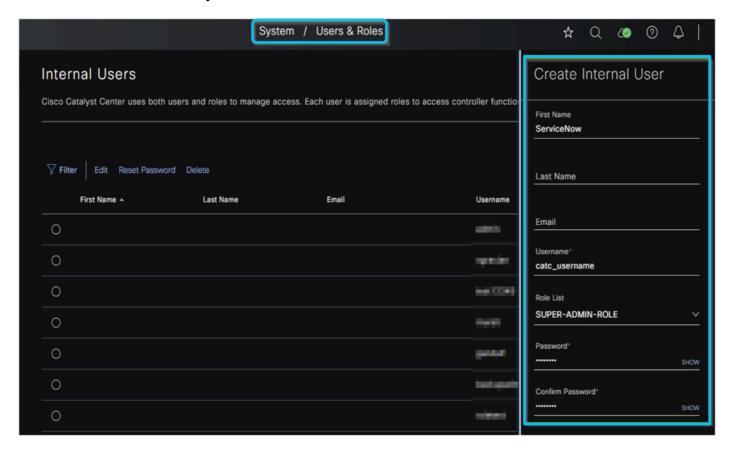
統合設定ページは、イベント通知を有効にするために重要です。このページでCisco Catalyst CenterのIPアドレス、仮想IP(VIP)アドレス、または完全修飾ドメイン名(FQDN)を入力すると、ServiceNow、WebHookサーバ、またはSMTPサーバなどの外部システムにイベント通知を送信するときにCisco Catalyst Centerが使用するコールバックURLが設定されます。この設定は、Cisco Catalyst Centerがイベント通知を正常に送信し、ServiceNowで変更チケットとインシデントチケットを自動的に作成するために必須です。Integration SettingsページでIPアドレスを適切に設定すると、特に複数のCisco Catalyst Centerインスタンスが同じServiceNowインスタンスに接続されている場合に、ServiceNowがAPIコール(チケットの詳細、承認の詳細、チケットの終了の詳細、CMDB同期の詳細など)を正しいCisco Catalyst Centerインスタンスにルーティングできるようになります。



注:インシデントおよび変更チケットでServiceNowから送信されたリンクにアクセスす

るエンドユーザは、統合設定ページで設定されたIPアドレス、VIPアドレス、または FQDNに到達できる必要があります。

次に、スーパー管理者権限を持つユーザ名とパスワードを作成します。このアカウントにより、 ServiceNow内のCisco Catalyst Centerアプリケーションは、MIDサーバ経由でHTTPSおよびITSM APIを使用してCisco Catalyst Centerプラットフォームに接続できます。

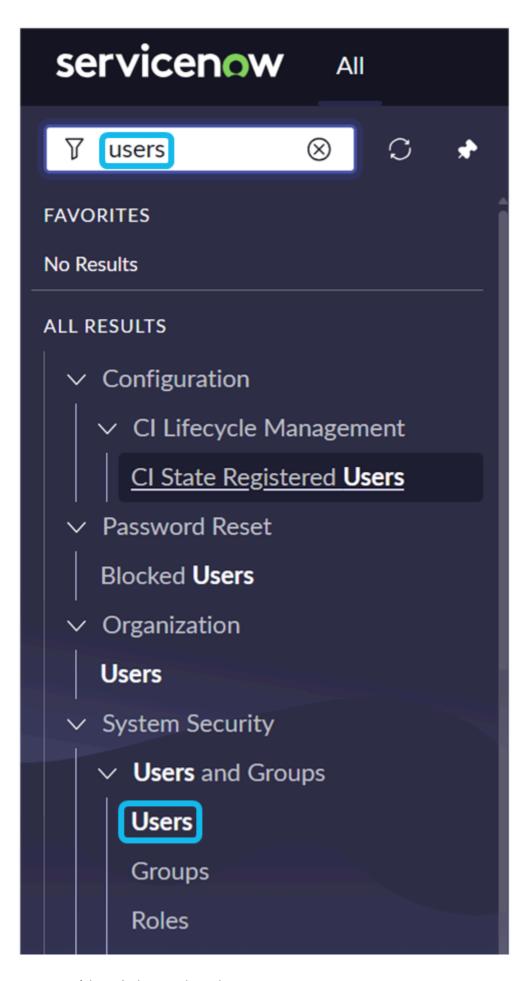


# セクション2:ServiceNowユーザの作成と設定

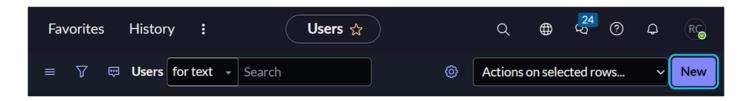
1. 管理者クレデンシャルを使用してServiceNow GUIにログインします。

servicenow	
User name Password  Log in	
Forgot Password?	
•	•

2. 検索フィールドにusersと入力し、Users and Groupsの下にあるUsersをクリックします。



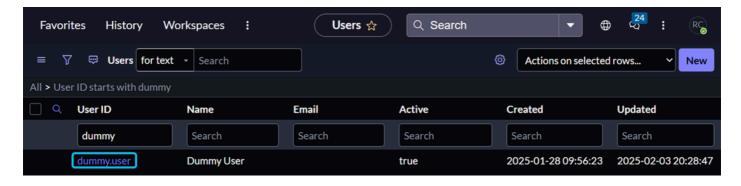
3. Newボタンをクリックします。



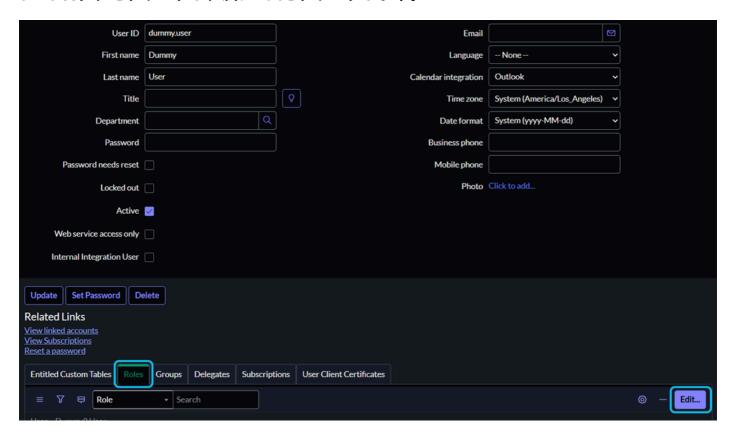
- 4. ユーザー情報を入力します。少なくとも、User IDフィールドとPasswordフィールドに入力し、Activeチェックボックスが選択されていることを確認します。
- ・ パスワード・フィールドに直接パスワードを入力した場合は、青いメッセージ・プロンプト が冗長なステップになるため、無視してかまいません。

User ID	dummy.user	
First name	Dummy	
Last name	User	
Title		Q
Department	Q	
Password	••••••	
Password needs reset		
Locked out		
Active		
Web service access only		
Internal Integration User		
Related Links View linked accounts View Subscriptions		

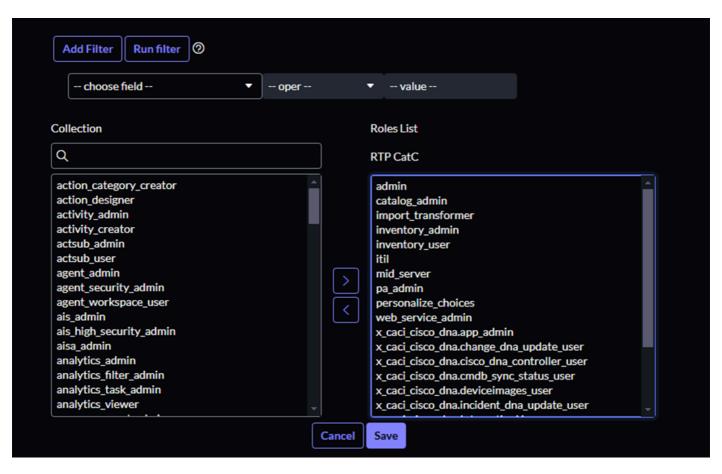
5. Usersセクションが表示されている状態で、新しく作成したユーザを検索し、そのエントリをクリックします。

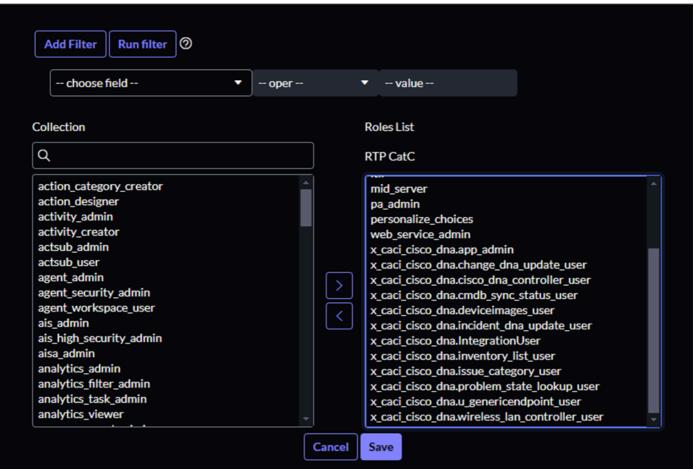


6. Rolesタブをクリックし、次にEditをクリックします。



- 7. 統合を成功させるために、次の必要なロールを追加します。
  - 1. [管理(Admin)]
  - 2. カタログ 管理者
  - 3. インポート\_トランスフォーマ
  - 4. インベントリ\_管理者
  - 5. インベントリ\_ユーザ
  - 6. Itil
  - 7. 中間サーバー(\_S)
  - 8. Pa\_admin
  - 9. 個人設定 選択肢
  - 10. Web\_service\_admin
  - 11. x\_caciで始まるすべてのロール。





- 8. 「保存」ボタンをクリックします。
  - ・ mid serverロールをこのユーザーに割り当てると、以降の手順でMIDサーバー専用の別のユ

- ーザーを作成する必要がなくなります。
- 9. ServiceNowからログアウトし、新しいユーザのクレデンシャルを確認します。



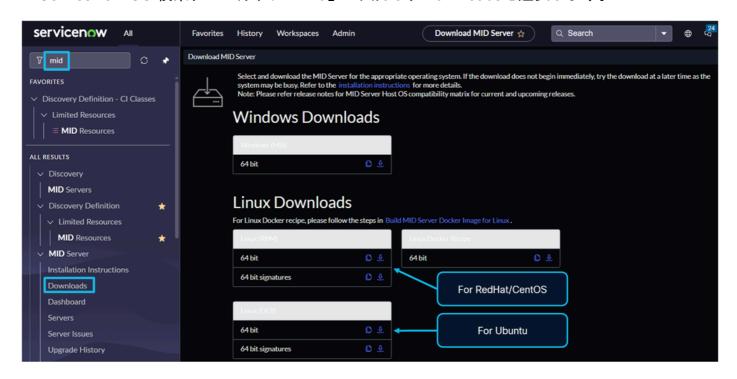
# セクション3: MIDサーバーの設定

MIDサーバパッケージをダウンロードして展開する前に、仮想マシン(VM)に対応する次のいずれかのオペレーティングシステムを選択します。

- · Ubuntu
- CentOS
- · RedHat
- •Windows

VMを導入します。VMには、ServiceNowとCisco Catalyst Centerの両方へのインターネットアクセスとHTTPSアクセスが必要です。

1. ServiceNow GUI検索フィールドに「mid」と入力し、Downloadsを選択します。



- 2. MIDサーバーのインストールパッケージをダウンロードします。次のいずれかを実行できます。
  - · これをローカルコンピュータにダウンロードし、VMサーバに転送します。
- ・ VMの端末にアクセスし、パッケージのURLでwgetコマンドを使用して、パッケージをVMサーバに直接ダウンロードします。
- ・ Downloadアイコンの横にあるCopyアイコンをクリックして、パッケージのURLをコピーします。



注:このセクションでは、Ubuntuコマンドラインインターフェイス(CLI)を使用した例を示します。 MIDサーバパッケージを導入する手順は、CentOS、RedHat、または Windows VMによって異なります。詳細については、ServiceNow Webサイトにある外部のServiceNowドキュメント「Install a MID Server on Linux」および「Install a MID Server on Windows」を参照してください。

3. 「LinuxでのMIDサーバーのインストール」ガイドを使用して、VMにMIDサーバーパッケージをダウンロードして展開します。

パッケージをダウンロードするには、MIDサーバーインストールパッケージのURLでwgetコマンドを使用します。

dcloud@dcloud:~\$ ls -lht total 296M -rw-rw-r-- 1 dcloud dcloud 296M Jun 5 04:53 mid-linux-installer.yokohama-12-18-2024\_patch4-05-14-2025\_06-04-2025\_1836.linux.x86-64.deb

### DEBパッケージをインストールします。

dcloud@dcloud:~\$ sudo dpkg -i mid-linux-installer.yokohama-12-18-2024\_patch4-05-14-2025\_06-04-2025\_1836.linux.x86-64.deb [sudo] password for dcloud:
Selecting previously unselected package agent.
(Reading database ... 122152 files and directories currently installed.)
Preparing to unpack mid-linux-installer.yokohama-12-18-2024\_patch4-05-14-2025\_06-04-2025\_1836.linux.x86-64.deb ...
Unpacking agent (27.4.0.10-20034.el7) ...
Setting up agent (27.4.0.10-20034.el7) ...
This system supports neither RPM nor DEB.
MID Server has been installed at /opt/servicenow/mid
MID Server can be configured using /opt/servicenow/mid/agent/installer.sh script
Please refer README file for more details

sudo -iを使用してルート権限を取得し、ディレクトリを/opt/servicenow/mid/agentに変更します

```
root@dcloud:/opt/servicenow/mid/agent# ls
total 268K
drwxr-x--- 3 root root 4.0K Jul 21 21:13
                                          bin
-rwxr-x--- 1 root root 11K Jun
                                5 04:47
                                          boot-config-reference.yaml
-rwxr-x--- 1 root root 1.3K Jun
                                          boot-config-sample.yaml
                                5 04:47
drwxr-x--- 2 root root 4.0K Jul 21 21:13
                                          conf
                                 5 04:47
-rwxr-x--- 1 root root
                        35K Jun
                                          configure.sh
-rwxr-x--- 1 root root 8.0K Jun
                                 5 04:47
drwxr-x--- 2 root root 4.0K Jul 21 21:13
                                          etc
                       71K Jun
                                 5 04:47 'EULA - MID Server.pdf'
-rwxr-x--- 1 root root
drwxr-x--- 2 root root 4.0K Jun
                                 5 04:47
                                          extlib
                                 5 04:47
-rwxr-x--- 1 root root
                        367 Jun
                                          installer.sh
drwxr-x--- 6 root root 4.0K Jul 21 21:13
                                          ire
drwxr-x--- 3 root root
                       32K Jul 21 21:13
                                          lib
-rwxr-x--- 1 root root
                       883 Jun
                                 5 04:47
                                          linux-x86-64.xml
                                5 04:47
drwxr-x--- 2 root root 4.0K Jun
                                          logs
drwxr-x--- 2 root root 4.0K Jul 21 21:13
                                          midinstaller
drwxr-x--- 4 root root 4.0K Jul 21 21:13
                                          package
drwxr-x--- 2 root root 4.0K Jul 21 21:13
                                          properties
-rwxr-x--- 1 root root
                         16 Jun
                                 5 04:47
                                          start.sh
-rwxr-x--- 1 root root
                         15 Jun
                                 5 04:47
-rwxr-x--- 1 root root 1.1K Jun
                                 5 04:47
                                          uninstall.sh
                                 5 04:47
drwxr-x--- 2 root root 4.0K Jun
                                          work
-rwxr-x--- 1 root root 30K Jun
                                 5 04:47
                                          wrapper-development-license-1.3.txt
-rwxr-x--- 1 root root 12K Jun
                                 5 04:47
                                          wrapper-tsims-addendum-1.3.txt
```

# 4. installer.sh bashスクリプト(./installer.sh)を実行し、プロンプトを完了して、MIDサーバを設定します。

```
Enter the More Notes are serviced on the service of the service of
```

5. MIDサーバーが起動しているかどうかを確認するには、start.sh bashスクリプトを実行します。

root@dcloud:/opt/servicenow/mid/agent# ./start.sh
Dummy\_ServiceNow\_MID\_Server is already running.

MIDサーバが設定後に起動しなかった場合は、start.shを使用してそのサービスを開始します。

MIDサーバを停止するには、stop.shを実行します。MIDサーバーサービスをアンインストールするには、uninstall.shを実行します。

Cisco Catalyst CenterとServiceNowの間のやり取りに関する最近の詳細なログについては、logs/agent0.log.0ファイルを調べてください

https://www.servicenow.com/docs/bundle/vancouver-servicenow-platform/page/product/mid-server/reference/r MIDServerTroubleshooting.html

```
root@dcloud:/opt/servicenow/mid/agent# 1s -1h logs
total 164K
-rw-r--r-- 1 dcloud dcloud 153K Jul 22 15:50 agent0.log.0
-rw-r--r-- 1 dcloud dcloud 0 Jul 22 14:55 agent0.log.0.lck
-rw-r--r-- 1 dcloud dcloud 1.1K Jul 22 14:55 FileHandlerReport.txt
-rw-r--r-- 1 dcloud dcloud 1.6K Jul 22 14:55 wrapper.log
```

- 6. MIDサーバを一時的に停止します。./stop.sh
- 7. config.xmlファイルを編集します(例:nano)。
- ・ MIDサーバーとServiceNowの間にプロキシサーバーが存在しない場合は、mid.proxy.use\_proxyをfalseに設定します。
- ・ TLS値をtrueからfalseに設定します。このアクションは、証明書、証明書チェーン、および CRLのチェックを無効にし、ServiceNowの「MIDセキュリティポリシー」ページの値が config.xml設定を上書きすることを防ぎます。
  - •変更を保存します。

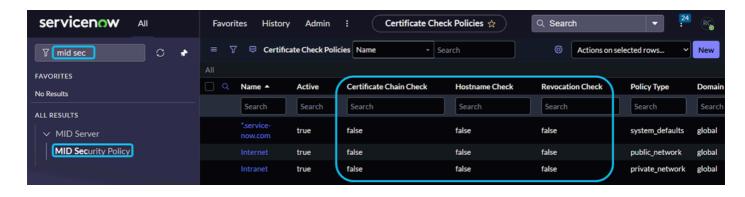
```
root@dcloud:/opt/servicenow/mid/agent# ls -lh
total 304K
-rwxr-x--- 1 dcloud dcloud 8.0K Jul 22 14:51 backup_config.xml
-rwxr-x--- 1 dcloud dcloud 1.1K Jul 22 14:51 backup mid.shconf override
drwxr-x--- 3 dcloud dcloud 4.0K Jul 22 14:54
                                              bin
-rwxr-x--- 1 dcloud dcloud 11K Jun 5 04:47
                                              boot-config-reference.yaml
-rwxr-x--- 1 dcloud dcloud 1.3K Jun 5 04:47
                                              boot-config-sample.yaml
drwxr-x--- 2 dcloud dcloud 4.0K Jul 21 21:13
                                              conf
-rwxr-x--- 1 dcloud dcloud
                           35K Jun
                                    5 04:47
-rwxr-x--- 1 dcloud dcloud 8.1K Jul 22 16:02
                                             config.xml
drwxr-x--- 2 dcloud dcloud 4.0K Jul 21 21:13
                                              etc
                                    5 04:47 'EULA - MID Server.pdf'
-rwxr-x--- 1 dcloud dcloud
                           71K Jun
drwxr-x--- 2 dcloud dcloud 4.0K Jun
                                    5 04:47
                                              extlib
-rwxr-x--- 1 dcloud dcloud
                           367 Jun
                                    5 04:47
drwxr-x--- 6 dcloud dcloud 4.0K Jul 21 21:13
                                              jre
drwxr-x--- 3 dcloud dcloud 32K Jul 21 21:13
                                              lib
-rwxr-x--- 1 dcloud dcloud 883 Jun
                                   5 04:47
                                             linux-x86-64.xml
drwxr-x--- 2 dcloud dcloud 4.0K Jul 22 16:03
                                             logs
drwxr-x--- 2 dcloud dcloud 4.0K Jul 21 21:13 midinstaller
drwxr-x--- 4 dcloud dcloud 4.0K Jul 21 21:13
                                              package
drwxr-x--- 2 dcloud dcloud 4.0K Jul 21 21:13
                                              properties
drwxr-xr-x 6 dcloud dcloud 4.0K Jul 22 14:56
                                              scripts
drwxr-xr-x 2 dcloud dcloud 4.0K Jul 22 14:55
                                             security
drwxr-xr-x 2 dcloud dcloud 4.0K Jul 22 14:55
                                              SecurityAudit
drwxr-xr-x 2 dcloud dcloud 4.0K Jul 22 16:03
                                              security backup
-rwxr-x--- 1 dcloud dcloud
                             16 Jun
                                    5 04:47
                                              start.sh
-rwxr-x--- 1 dcloud dcloud
                             15 Jun
                                    5 04:47
                                              stop.sh
drwxr-xr-x 2 dcloud dcloud 4.0K Jul 22 14:56
                                              tools
                                    5 04:47
-rwxr-x--- 1 dcloud dcloud 1.1K Jun
drwxr-x--- 5 dcloud dcloud 4.0K Jul 22 16:03
-rwxr-x--- 1 dcloud dcloud
                            30K Jun
                                     5 04:47
                                              wrapper-development-license-1.3.txt
-rwxr-x--- 1 dcloud dcloud
                            12K Jun
                                     5 04:47
                                              wrapper-tsims-addendum-1.3.txt
```

```
<!--
<parameter name="mid.proxy.use_proxy" value="false"/>
<parameter name="mid.proxy.host" value="YOUR_PROXY_HOST"/>
<parameter name="mid.proxy.port" value="YOUR_PROXY_PORT"/>
-->
```

```
<!-- Bootstrap properties for TLS Connection policies that are controlled from the instance table (mid_cert_check_policy) -->

cyparameter name="mid.ssl.bootstrap.default.check_cert_chain" value="false"/>
cyparameter name="mid.ssl.bootstrap.default.check_cert_chain" value="false"/>
cyparameter name="mid.ssl.bootstrap.default.check_cert_revocation" value="false"/>
<!-- If true, MID Sec Policy from SNOW instance will overwrite MID bootstrap cert policy in config.xml; false, otherwise -->
cyparameter name="mid.ssl.use.instance.security.policy" value="false">
```

ServiceNow GUIで、MID Security Policyページに移動します。このページの値が、MIDサーバの config.xmlファイルで行った変更に一致していることを確認します。正しい設定と一致する値により、ServiceNowとMIDサーバ間の検証プロセス中に信頼と接続が正常に行われます。



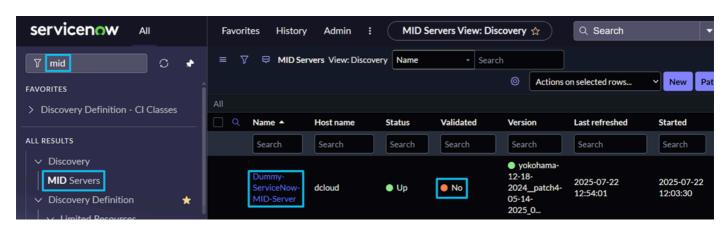


注:会社のポリシーで証明書の使用が必須とされている場合は、ServiceNowサーバと MIDサーバの両方で関連する設定を更新し、接続が正常に行われるように証明書が適切に 実装されるようにします。

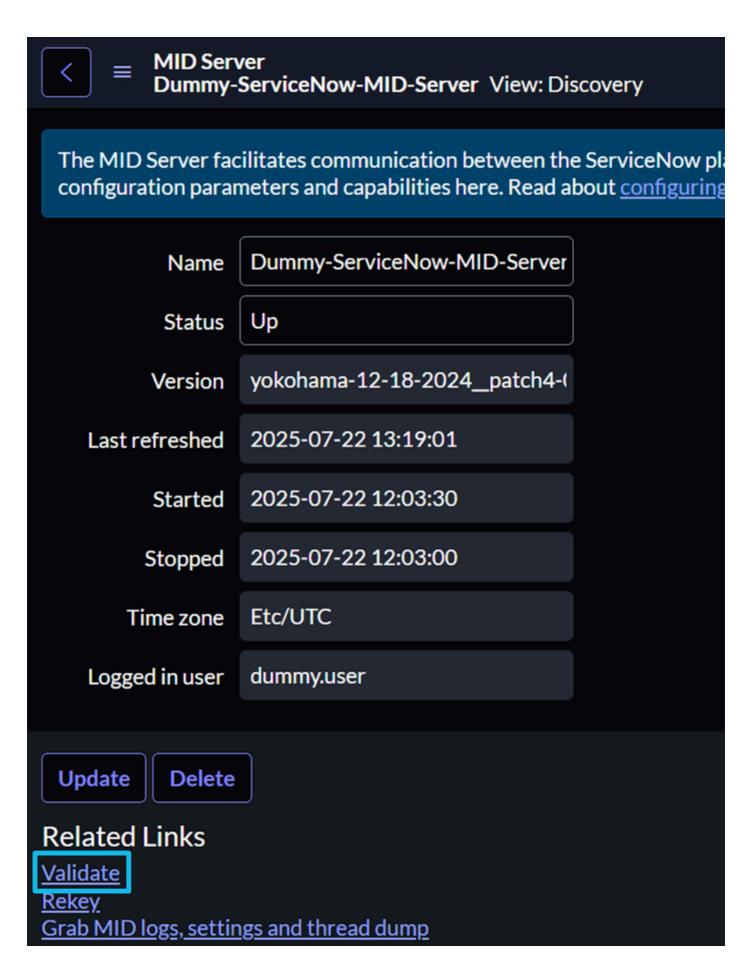
8. MIDサーバの起動: ./start.sh

root@dcloud:/opt/servicenow/mid/agent# ./start.sh Starting Dummy\_ServiceNow\_MID\_Server with systemd... Waiting for Dummy\_ServiceNow\_MID\_Server... running: PID:1836374

- 9. ServiceNow GUIの検索フィールドにmidと入力し、MID Serversを選択します。
- ・ 新しく作成したMIDサーバエントリを見つけます(「Dummy-ServiceNow-MID-Server」など)。



10. MIDサーバエントリをクリックし、次にValidateをクリックします。

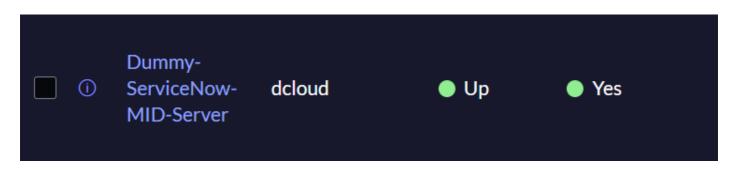


11. ServiceNowは、接続、設定、および割り当てられたロールを確認するための検証プロセスを開始します。

# (i) MID server being validated

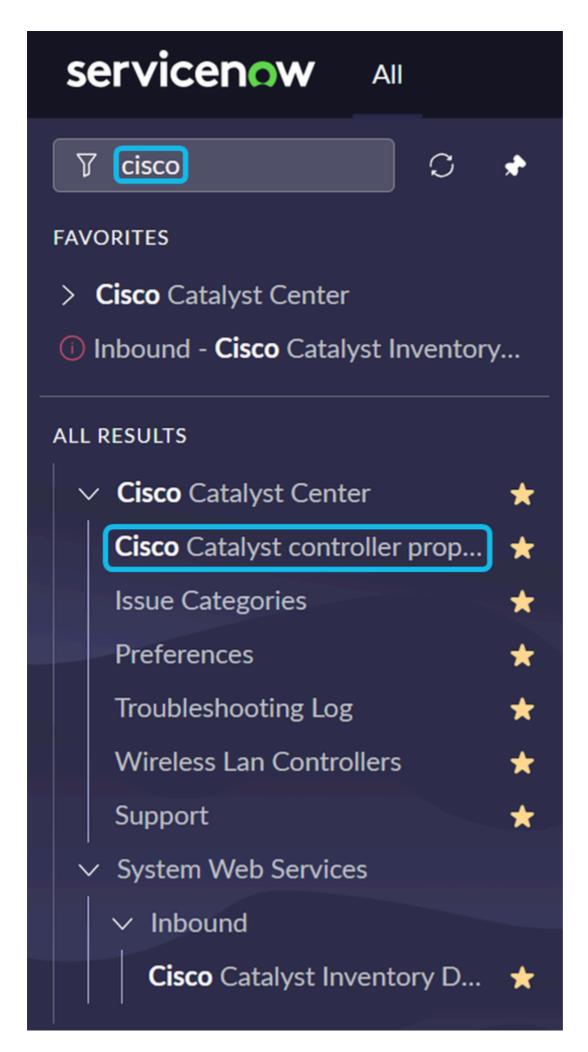
- 12. 検証プロセスは、通常5分以内に完了します。ステータスが10分以上「Validating」のままになっている場合は、次のチェックを実行します。
  - · ServiceNowサーバとMIDサーバの両方の構成設定を再確認します。
  - ・ ServiceNowとMIDサーバ間のHTTPS接続を確認します。
- ・ これらのチェックが成功したら、MIDサーバのagent0.log.0ファイルを調べて、証明書の問題やその他の問題について確認します。

正しい設定とHTTPS接続を使用した検証が成功すると、ServiceNowの「MID Server」ページに 予期されるステータスが表示されます。



# セクション4:ServiceNowでのCatCエントリの作成

1. ServiceNow GUIを開き、検索バーに「cisco」と入力します。Cisco Catalyst Controller Propertiesを選択します。



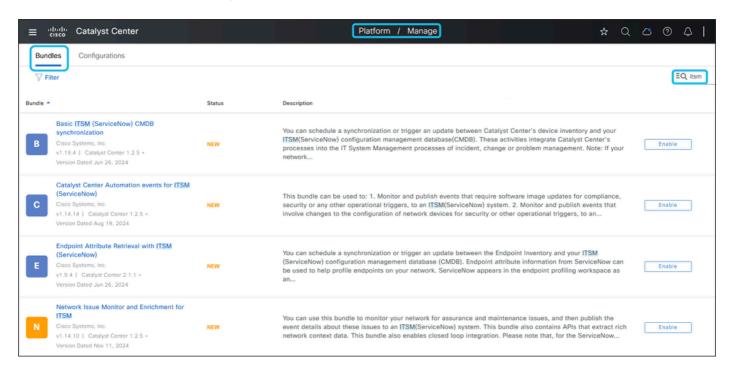
パスワードは暗号化され、安全に保存されます。このプロパティを使用してCatC接続のx-authtokenを生成すると、必要に応じてパスワードが復号化されます。

「MID Server」ドロップダウンに、ServiceNowインスタンスで使用可能なすべてのMIDサーバが表示されます。CatCとの通信に使用するMIDサーバを選択します。



# セクション5: CatC GUIでの統合の開始

1. Cisco Catalyst Center GUIを開きます。Platform > Manage > Bundlesの順に選択します。検索フィールドにitsmと入力します。

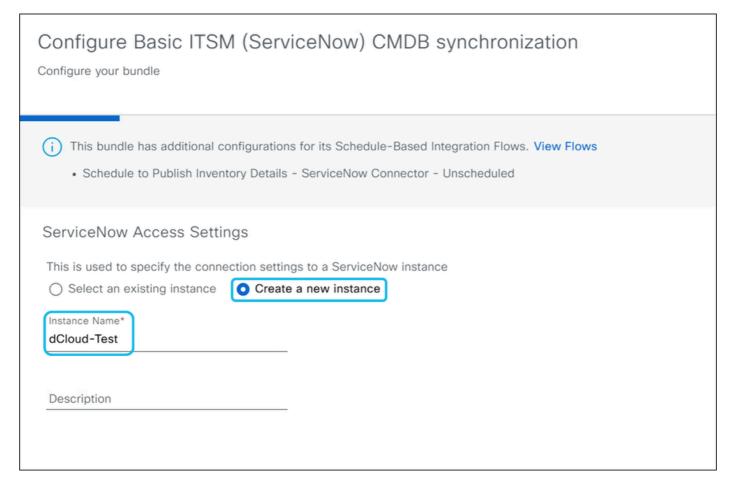


2.Basic ITSM (ServiceNow) CMDB Synchronizationバンドルに対してEnableをクリックします。確認のポップアップで、再度Enableをクリックします。



注:他のITSMバンドルを有効にする前に、基本ITSM(ServiceNow)CMDB同期バンドルを有効にする必要があります。

- 3. Configureをクリックし、必須フィールドに入力します。
  - インスタンス名: ServiceNowインスタンスのわかりやすい名前を入力します。

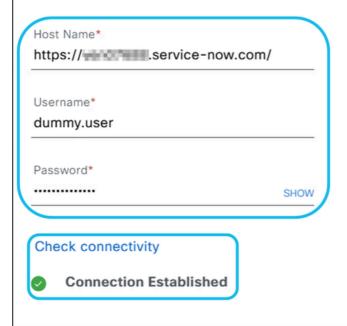


• URL、ユーザ名、パスワード:ServiceNowインスタンスのクレデンシャルを入力し、接続をテストします。CatCからServiceNowへの通信にはTCPポート443が使用されます。

# Configure Basic ITSM (ServiceNow) CMDB synchronization

Configure your bundle

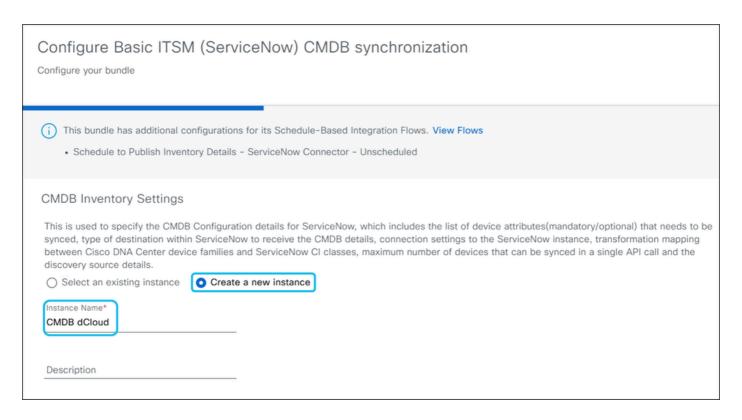
# ServiceNow Access Settings



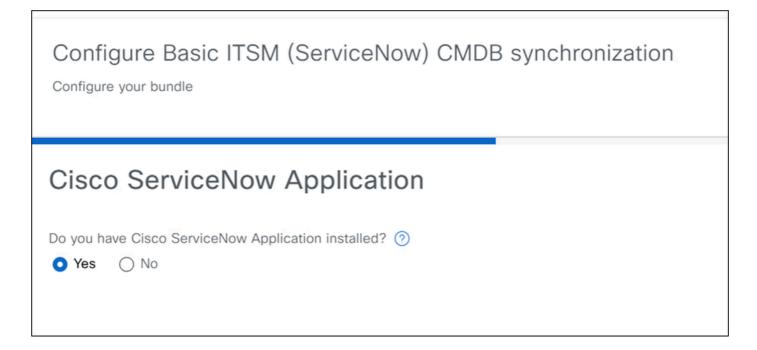


注:ServiceNow GUIでMulti-Factor Authentication(MFA)を無効にして、正常に統合できるようにします。MFAが有効な場合、「Connection Established」メッセージの代わりにエラーが返されます。

- 4. CMDBインスタンスの名前を入力します。
  - 同期するデバイス属性、CMDBの詳細のServiceNowデスティネーション、接続設定、 Catalyst CenterデバイスファミリとServiceNow CIクラス間の変換マッピング、APIコールご との最大デバイス数、検出ソース情報など、CMDB構成の詳細を指定します。



5. CatCアプリケーションがServiceNowにインストールされている場合は、Yesを選択します。



6. Synchronize device inventory directly with CMDBを選択します。このオプションは、ServiceNowのCatC App内のREST APIエンドポイントにデータを送信します。

Configure Basic ITSM (ServiceNow) CMDB synchronization  Configure your bundle
Select Destination
Destination Type*
Synchronize device inventory directl   Synchronize device inventory directly with CMDB
Destination Uri
/api/now/import/x_caci_cisco_dna_cisc

7. デフォルトの在庫データフィールドを使用するか、必要に応じて追加のフィールドを追加します。 Update TransformsページでNextをクリックします。

	nfigure Basic ITSM (S	ServiceNow) CMDB synchronization		
Sel	ect Inventory Data	a Fields		
	Name	Description	Is Attribute / Is Reference	
	Host Name	Hostname of the device	<ul><li>Attribute</li></ul>	Reference
	MAC Address	MAC Address of the Device	<ul><li>Attribute</li></ul>	Reference
	Device Id	ld of the Device	<ul><li>Attribute</li></ul>	Reference
	IP Address	Management IP Address of the device	<ul><li>Attribute</li></ul>	Reference
	Serial Number	Serial Number of the device	<ul><li>Attribute</li></ul>	Reference
	Upgrade Failure Reason	Upgrade Failure Reason	<ul><li>Attribute</li></ul>	Reference
	CurrentSMU Upgrade Date	CurrentSMU Upgrade Date	<ul><li>Attribute</li></ul>	Reference
	CurrentSMU	CurrentSMU	<ul><li>Attribute</li></ul>	Reference
	Prior Upgrade Date	Prior Upgrade Date	<ul><li>Attribute</li></ul>	Reference
	Code Upgrade Date	Code Upgrade Date	<ul><li>Attribute</li></ul>	Reference

7. このセクションでは、デバイスファミリはServiceNowのClクラスにマッピングされます。ほと

んどのデバイスファミリはマッピングされますが、マッピングは編集できます。「Network Gear」親クラスの下にある有効なCIクラスのみを選択できます。有効なクラスは、Basic ITSM(ServiceNow)CMDB Synchronizationバンドルを設定するときに「Update Transforms」セクションに表示されます。

Configure Basic ITSM (ServiceNow) CMDB synchronization  Configure your bundle			
Update Tra	ansforms		
Device Family	CI Class		
Routers	cmdb_ci_ip_router		
Switches and Hubs	cmdb_ci_ip_switch		
Unified AP	cmdb_ci_wap_network		
Wireless Controller	x_caci_cisco_dna_wireless_lan_control		

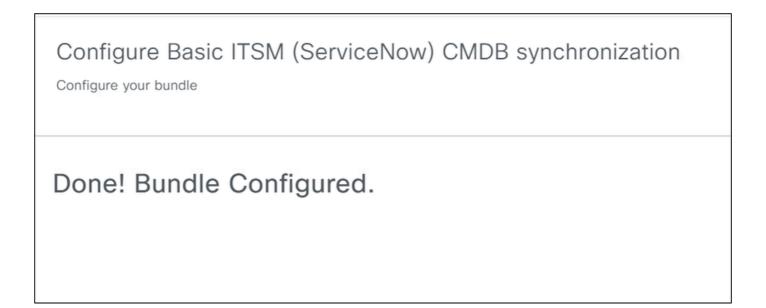
8. Source Identifier (Exact Match)ドロップダウンで、Cisco Catalyst Inventory、Other Automated、またはServiceNowで作成されたカスタムIDを選択します。 CatCはAPIを介してCIリストを取得します。このフィールドは記録を保持するためのもので、システムの動作には影響しません。 Inventory Items per Iterationfieldに、小さい値(25や100など)を入力します。 これにより、ServiceNowは次の送信前に各バッチを処理するのに十分な時間を確保できます。

# Configure Basic ITSM (ServiceNow) CMDB synchronization Configure your bundle Set Source Identifier and Operational Limit Source Identifier(Exact Match)\* dCloud-CatC Inventory Items Per Iteration\* 100

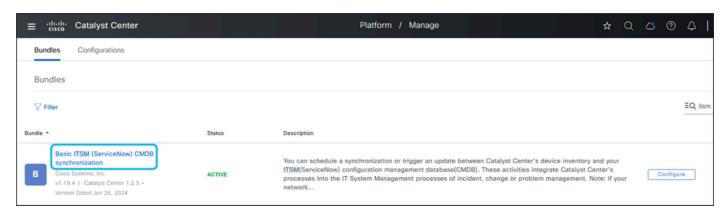
9. Basic ITSM(ServiceNow)CMDB Synchronizationバンドルのサマリーページを確認します。Configureをクリックして、設定を終了します。

Configure Basic ITSM (ServiceNow) CMDB synchronization  Configure your bundle
Summary
Review your configuration and make any changes.
∨ Destination and Instance
Destination: ServiceNow Domain: https://service-now.com/ Uri: /api/now/import/x_caci_cisco_dna_cisco_dna_inventory_det Username: dummy.user Password: ********
∨ Inventory Data Fields
Send To Destination: Host Name (A), MAC Address (A), Device Id (A), IP Address (A), Serial Number (A), Upgrade Failure Reason (A), CurrentSMU Upgrade Date (A), CurrentSMU (A), Prior Upgrade Date (A), Code Upgrade Date (A), Building (RF), Location (RF), Time Since Code Upgrade (A), Number Of Users (A), Role (A), Fabric Role (A), Uptime (A), Reachability status (A), Part Number (RF), Type (A), Software Version (A)
∨ Data Transforms
Transformations: Routers: cmdb_ci_ip_router, Switches and Hubs: cmdb_ci_ip_switch, Unified AP: cmdb_ci_wap_network, Wireless Controller: x_caci_cisco_dna_wireless_lan_controller
∨ Limit and source
Source Identifier: dCloud-CatC

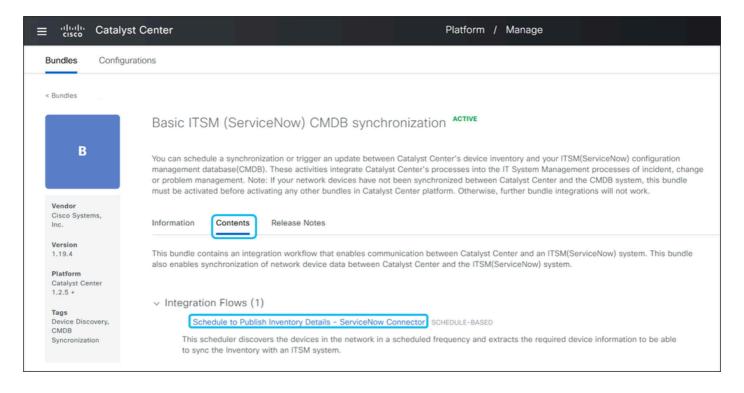
### バンドルが設定されました。



10. Bundlesページに戻り、Basic ITSM (ServiceNow) CMDB Synchronizationの順に選択します。



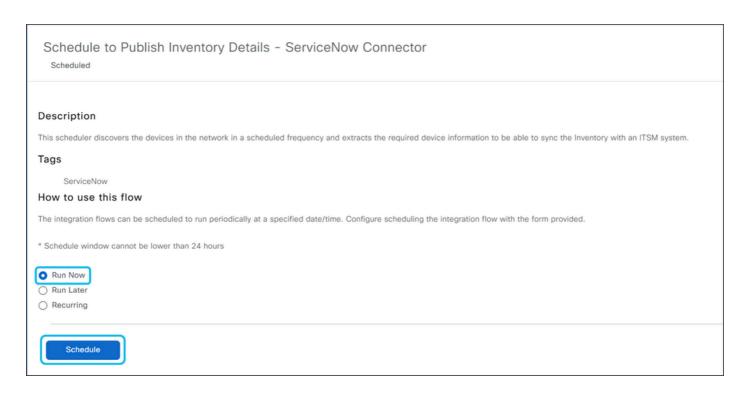
11. Contentsタブに移動し、Integration Flowsを展開し、Schedule to Publish Inventory Details -ServiceNow Connectorを選択します。



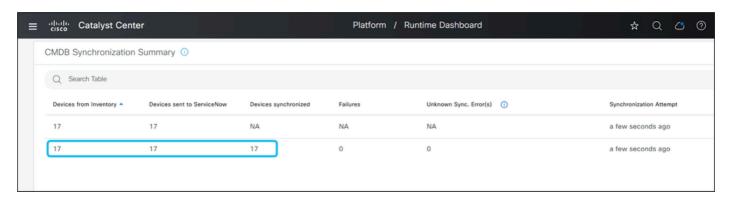
12. 毎日または毎週のスケジュールを設定するか、同期を即座に実行してCatCからServiceNowに管理対象デバイスデータを送信します。

Schedule to Publish Inventory Details - ServiceNow Connector  Not Scheduled
How to use this flow
The integration flows can be scheduled to run periodically at a specified date/time. Configure scheduling the integration flow with the form provided.
* Schedule window cannot be lower than 24 hours
Run Now Run Later Recurring
Repeats  Daily
✓ Set Schedule Start         Jul 26, 2025       □□         8:00       AM
Select Time Zone  (GMT-04:00) America/New_York   Set Schedule End
Schedule End Schedule

13. 同期プロセスを即座に実行して、ServiceNow CMDB CIデバイスリストのCatCインベントリページから管理対象デバイスを即座に表示することもできます。

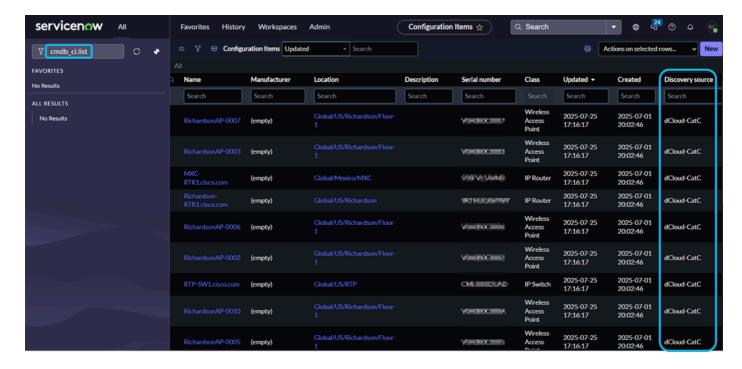


14. 「プラットフォーム」 > 「ランタイム・ダッシュボード」 にナビゲートし、CMDBインベントリ同期のステータスおよび成功を表示します。





15. ServiceNow GUIの検索バーにcmdb\_ci.listと入力し、Enterを押します。CatCインベントリの管理対象デバイスがCMDB CIデバイスリストに表示され、正しいソースIDに関連付けられていることを確認します。



このワークフローが役に立てば幸いです。

# 参考資料

<u>Cisco Catalyst Center ITSM統合ガイド、リリース2.3.7.x</u>

Cisco Catalyst CenterとServiceNowの統合に関する外部資料:

Catalyst CenterとITSMの統合の基本概念のスコープ

Catalyst CenterインベントリとServiceNow CMDBシステムの同期

<u>Catalyst Center Network Issue Monitorの使用とITSMのエンリッチメント</u>

ITSMでのCatalyst Center Automation(SWIM)イベントの監視

### 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版(リンクからアクセス可能)もあわせて参照することを推奨します。